

2013年度
事業報告書

2013年4月 1日から
2014年3月31日まで

公益財団法人 国際文化会館

項目	頁
1. 組織体制	1
2. 募金活動	1
3. 総務関係事項	2
4. 施設管理	2
5. 会員関係	2
6. プログラム活動	7
7. 国際文化会館の運営	27

I. 組織体制

A. 理事会・評議員会

2013年度中に開催された理事会・評議員会は、以下の通りである。

第1回理事会 2013年5月28日開催

第2回理事会 2014年3月7日開催

第1回評議員会 2013年6月18日開催

B. 理事・監事・評議員

2013年度中の理事・監事・評議員の異動は、以下の通りである。

【理事】

(退任) 森 隆一 (2013年6月18日)

(新任) 岩下 幹 (2013年6月18日)

【評議員】

(死去) 堤 清二 (2013年11月25日)

2013年度末現在の役員数は、理事14名、監事2名、評議員19名である。

C. 職員数

2013年度中の新規採用者は1名、また2名の職員が退職した。2013年度末現在の職員数は11名（男性3名、女性8名）である。

II. 募金活動

A. 助成金・寄付金

2013年度中に領収した各種助成金・寄付金の主たるものは、以下の通りである。

国際交流基金	18,620千円(千円未満四捨五入)
日米国際金融シンポジウム	12,750
日米友好基金	5,404
MRAハウス	2,723

渋沢栄一記念財団	1, 200
米国大使館	600
霞会館	300
入会時寄付金	11, 300
諸寄附	2, 042

III. 総務関係事項

A. 六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合

地区住民・地権者の協議機関である「六本木5丁目西地区市街地再開発準備組合」(2008年設立)に会館も参加し、この地区のより良い街づくりについて話し合っている。東日本大震災の影響もあり、計画の具体化に停滞がみられたが、一昨年末、事業受託者に住友不動産(株)が加わり、事業推進力に弾みがついてきたこともあって、今夏に向けて基本計画修正案の策定が進んでいる。

IV. 施設管理

かねてより経年劣化が目立った、地下宴会場テラスの補修工事を8月に行った。また、「モーリーン&マイク・マンズフィールド財団」との戦略的パートナーシップ締結に伴い、上記財団事務所移転のためにキュビクルの一部使用停止と、2014年1月下旬から2月中旬にかけて、事務所転用のための改装工事を行った。

V. 会員関係

A. 個人会員

2013年度は、新規入会が114名(日本人90名、その他24名)あり、昨年度比34名増加(日本人27名増、その他7名増)した。退会届提出、死亡、会費滞納による退会者は149名(日本人106名、その他43名)で、昨年度比13名減少(日本人8名増、その他21名減)した。これにより全体として35名(日本人16名、その他19名)の会員数の減少となり、2013年3月31日現在、日本人会員2,057名とその他39カ国(地域)の

会員 895 名の合計は 2,952 名となった。

	日本	その他	小計	合計
新入会員	90 (79%)	24 (21%)		114 (100%)
退会	44	13	57 (38%)	
死亡	46	16	62 (42%)	
会費滞納	16	14	30 (20%)	
小計	106 (71%)	43 (29%)		149 (100%)
増減	-16	-19		-35

B. 法人会員

2013 年度の新規入会は 13 法人 14 口で、昨年度比 4 法人 5 口増となった。一方 19 法人 24 口の退会・減口があり、これにより法人会員数は昨年度比 6 法人 10 口減少し、2014 年 3 月 31 日現在、合計 176 法人 207 口となった。

	法人数	口数	昨年度比	
5 口 法人	1	5	0	
4 口 "	1	4	0	
3 口 "	3	9	0	
2 口 "	18	36	-4	(-8 口)
1 口 "	153	153	-2	(-2 口)
計	176	207	-6	(-10 口)

C. 優待会員

優待会員は会員の種類から廃止されているため、現会員の離任による後任の登録はない。2014 年 3 月 31 日現在、優待会員は 1 名となっている。

D. 図書会員

新規入会者は 29 名、退会者は 23 名で、2014 年 3 月 31 日現在、図書会員は 16 力国 130 名となった。

E. 総収入

2013 年度の図書会費を含む会費収入は、¥65,848,356 で、昨年度比

¥167,958 増加し、また入会時寄付金収入は¥11,300,000 で、昨年度比 ¥2,600,000 増加した。法人会費収入は¥35,303,585 で、昨年度比¥30,975 減少した。

	2013 年実績	予算	2012 年実績
個人会員費	¥65,848,356	¥64,000,000	¥65,680,398
入会時寄付金	11,300,000	10,000,000	8,700,000
法人会員費	35,303,585	38,000,000	35,334,560
合計	<u>¥112,451,941</u>	<u>¥112,000,000</u>	<u>¥109,714,958</u>

F. 会員晩餐会

2013 年度は、昨年の開館 60 周年記念晩餐会を引き継ぐ形で、11 月 18 日に特別ゲストとして浜田宏一・イェール大学名誉教授をお招きし、会館との思い出やアベノミクスと日本経済についてお話しいただいた。当日は 94 名の会員が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

G. 新入会員懇談会

2013 年度の新入会員懇談会は、7 月 11 日に樺山・松本ルームで開催され、38 名の会員および同伴者が出席した。

個人会員国籍別統計

(2014年3月31日現在)

国籍／地域	計					計 2014年 3月31日
	2013年 3月31日	新入会員 (+)	退会 (-)	死亡 (-)	会費滞納 (-)	
オーストラリア	28	2	1	0	1	28
オーストリア	4	0	0	0	0	4
ベルギー	3	1	0	0	0	4
カナダ	34	2	2	0	0	34
中華人民共和国	3	0	0	0	0	3
デンマーク	2	0	0	0	0	2
エクアドル	1	0	0	0	0	1
エジプト	1	0	0	0	0	1
フィンランド	3	0	0	0	0	3
フランス	10	0	0	0	0	10
ドイツ	31	2	1	1	0	31
ガーナ	1	0	0	0	0	1
香港	1	0	0	0	0	1
インド	7	0	1	0	0	7
インドネシア	3	0	0	0	0	3
アイルランド	6	0	0	0	0	6
イスラエル	2	0	0	0	0	2
イタリア	7	0	0	0	0	7
日本	2,074	90	44	46	16	2,057 *
ケニア	1	0	0	0	0	1
韓国	22	0	0	1	0	21
マレーシア	3	1	0	0	0	4
ネパール	1	0	0	0	0	1
オランダ	8	0	0	0	1	7
ニュージーランド	3	0	1	0	0	2
パキスタン	1	0	0	0	0	0
フィリピン	4	0	0	0	0	4
ポルトガル	1	0	0	0	0	1
ロシア	2	0	0	0	0	2
シンガポール	6	1	0	0	0	7
南アフリカ	1	0	0	0	0	1
スペイン	1	0	0	0	0	1
スウェーデン	14	1	0	0	0	15
スイス	6	0	1	0	0	5
台湾	3	0	0	0	0	3
タイ	10	0	0	0	0	10
トルコ	4	0	0	0	0	4
イギリス	53	1	0	0	0	54
アメリカ	621	13	6	14	12	603 *
ベトナム	1	0	0	0	0	1
日本人	2,074	90	44	46	16	2,057
その他	913	24	13	16	14	895
合計	2,987	114	57	62	30	2,952

*国籍変更:日本→アメリカ

法人会員分布
(2014年3月31日現在)

県/国	5口	4口	3口	2口	1口	法人数	口数
千葉				1	0	1	2
東京	1	1	2	16	135	155	182
神奈川					1	1	1
愛知					1	1	1
大阪			1	1	3	5	8
広島					1	1	1
福岡					1	1	1
ドイツ					1	1	1
香港					1	1	1
オランダ					1	1	1
イギリス					1	1	1
アメリカ					6	6	6
合計							
法人数	1	1	3	18	153	176	
口数	5	4	9	36	153		207

VI. プログラム活動

I. 知的対話プログラム

1. アジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP)

1996年度以来、国際交流基金との共催事業として実施してきたアジア・リーダーシップ・フェロー・プログラム (ALFP) は、2013年度で18年目を迎えた。ALFPでは、毎年アジア各国から6~7名のパブリック・インテレクチュアルを選抜し、フェローとして2カ月間日本に招聘している。滞日中フェローたちは、国際文化会館で寝食を共にしながら、アジア地域や世界に共通する諸課題について議論する。こうした知的対話を通じてALFPは、地域内ならびにトランスナショナルな理解と協力を促進し、アジアのパブリック・インテレクチュアルおよび日本のカウンターパートとの緊密なネットワーク構築を目指している。2013年度は、7名のフェローを招聘した。現在までに、学界、ジャーナリズム、出版、法律、教育、芸術、NGO (非政府組織)、NPO (非営利組織) など、さまざまな専門領域のフェロー102名が選ばれている。

2013年度は、「The Future of Asia, the World and Humanity after Development and Growth」という共通テーマのもと、フェローたちは9月9日から10月25日まで主として国際文化会館に滞在し、日本を拠点とする学者、ジャーナリスト、芸術家、NGO/NPOリーダーたちとのワークショップ、リソース・セミナー、フィールド・トリップに参加した。プログラムの最後には都内大学3カ所にて、主に学生を対象に公開連続セミナーを開催し、共同作業の成果を交えながら、それぞれの専門や国の現状について発表した。

2013年度に来日した7名のフェローとプログラム概要は、以下の通りである。

ネリア・バルゴア／国立ミンダナオ大学イリガン工科校准教授
(フィリピン)

チン・オイ・シム／マレーシア弁護士会連合会CEO代理
(マレーシア)

何潤鋒 ハー・ルンフォン／中国中央テレビ (CCTV) 特派員
(中国 [香港])

今田克司／CIVICUS: World Alliance for Citizen Participation (市民社会の参画のための世界同盟) シニア・アドバイザー

(日本)

ルウィン・ルウィン・モン／ヤンゴン大学人類学部准教授

(ミャンマー)

サバ・ナクヴィ／『アウトルック』誌政治部編集者

(インド)

ズバイル・トルワリ／教育開発センター (IBT) 事務局長

(パキスタン)

[ワークショップ]

フェローによるカントリー・レポート (1) (9月10日)

フェローによるカントリー・レポート (2) (9月11日)

フェローによるカントリー・レポート (3) (9月12日)

明石康理事長とのランチオン・ミーティング (9月12日)

ディスカッション・ペーパー発表会議の補足討議 (1) (9月25日)

ディスカッション・ペーパー発表会議の補足討議 (2) (9月27日)

ディスカッション・ペーパー発表会議の補足討議 (3) (9月30日)

公開連続セミナーに関するディスカッション (10月4日)

[リソース・セミナー]

「安倍晋三—彼はどのような人で、何をしようとしているのか？」藤原
帰一／東京大学大学院法学政治学研究科教授 (9月13日)

「日本と日本の社会運動の概況」小熊英二／慶應義塾大学SFC教授 (9月
19日)

「3.11のメディア報道」ポール・ブルースティン／元『ワシントン・ポス
ト』紙東京特派員 (9月20日)

新渡戸国際塾生とのディスカッション (9月21日)

「40年間の日本のフェミニズム」上野千鶴子／東京大学名誉教授 (9月25
日)

「富山県南砺市」今井良治／南砺市観光大使 (9月26日)

「3.11後のエネルギーと核エネルギー—問題と課題」鈴木達治郎／原子力
委員会委員長代理 (9月27日)

「アフガニスタン・カシミール紛争における対テロ戦争—2004年の
US&NATO退去後の地域展望」伊勢崎賢治／東京外国語大学大学院地域文
化研究科平和構築・紛争予防講座教授 (9月30日)

「現在の日本のホームレス問題」佐野未来／有限会社ビッグイシュー日
本東京事務所マネージャー (10月1日)

「日本での弁護士の役割」伊藤和子／NGOヒューマンライツ・ナウ事務局長、弁護士（10月2日）

「失われた日本文化」アレックス・カー／作家（10月3日）

「3.11震災と政府、NGO・NPO、人々の対応」大橋正明／国際協力NGOセンター理事長（10月3日）

[フィールド・トリップ／その他の訪問先]

秋葉原視察（9月18日）

案内：デイヴィッド・ディヒーリ／有限会社2dk代表取締役

新大久保視察（10月1日）

北陸・関西 フィールド・トリップ（10月7日～11日）

富山県南砺市

- 南砺市のエコビレッジ構想についてのブリーフィングおよびエコビレッジ予定地見学
- 井波の彫刻、城端の絹織物工場見学
- セミナー「地域限定アニメについて」菊池宣広／株式会社PAワークス専務取締役およびアニメ制作現場見学
- セミナー「南砺の精神文化と土徳について」太田浩史／大徳寺住職
- 世界遺産の五箇山集落、和紙づくり工房見学
- 「持続可能な社会と南砺市の取り組みについて」地元農家や経営者とディスカッション

兵庫県・大阪府

- セミナー「在日韓国人について」李 洙任（リー・スーイム）／龍谷大学経営学部教授
- 兵庫県立芦屋国際中等教育学校見学および学生との交流
- たかとりコミュニティセンター訪問
- 「あいりん地区」視察（案内：山田 實／NPO釜ヶ崎支援機構理事長）
- セミナー「ブレーカー・プロジェクトについて」雨森 信／Breaker Projectディレクター

東北視察（10月15日～16日）

- 東和の「道の駅」訪問・視察
- 菅野正寿（福島県有機農業ネットワーク代表）との懇談
- 放射能対策実証田視察（福島県二本松）

- 農家の夢ワイン工場見学（福島県二本松）
- ゆうきの里東和地域資源循環センター視察
- セミナー「被災地とメディアについて」武内宏之／石巻日日新聞報道部長
- セミナー「震災後の気仙沼の漁業について」白井壯太郎／白福本店代表取締役社長
- 気仙沼の被災地視察

[ディスカッション・ペーパー発表会議]（9月17日）

フェローが、自身の専門分野や出身国の現状について発表し、日本の有識者と議論を交わす会議を、国際文化会館で開催した。参加者は、以下の通りである。

黒田かをり／CSOネットワーク共同事業責任者、ALFP2009年度フェロー
 鈴木佑司／法政大学法学部教授
 竹中千春／立教大学法学部教授
 中野嘉子／香港大学文学部日本研究学科准教授、ALFP2003年度フェロー
 堀本武功／京都大学大学院特任教授

2. 牛場記念フェローシップ

本フェローシップは、世界に今なお残るさまざまな分断状況を乗り越え、ヒューマニズム的観点から問題提起をしている世界の傑出した知識人を招聘し、内外の有識者間の対話促進を目的としている。

2013年度は、イタリアの政治哲学者、アントニオ・ネグリ氏を4月3日より10日間招聘した。ネグリ氏は滞日中、国際文化会館での講演のほか、日本学術会議との共催シンポジウムでの講演を行った。ネグリ氏の講演内容は、2014年3月に『ネグリ、日本と向き合う』（NHK出版新書）というタイトルで、NHK出版より刊行された。

本フェローシップは、牛場信彦記念財団の残余財産の寄贈を受けて実施している。

開催日	タイトル	講師など
4月6日	日本学術会議・国際文化会館 共催シンポジウム マルチチュードと権力ー 3.11以降の世界	基調講演者：アントニオ・ネグリ 報告者： 市田良彦／神戸大学国際文化科学研究科教授

		上野千鶴子／東京大学名誉教授、立命館大学大学院先端総合学術研究科特別招聘教授 毛利嘉孝／東京藝術大学大学院音楽研究科准教授 コーディネーター・司会：伊藤 守／早稲田大学教育・総合科学学術院教授
4月12日	日本におけるアントニオ・ネグリとの対話	講師：アントニオ・ネグリ 対談者：姜 尚中／東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授、現代韓国研究センター所長

3. 日印対話プログラム Japan-India Distinguished Visitors Program

2012年の日印平和条約の締結60周年を機に、国際交流基金と共催して、日印両国間に民間レベルの「対話の場」を創出するため、新たな人物招聘事業「Japan-India Distinguished Visitors Program」を立ちあげた。本プログラムは、社会のさまざまな課題の解決に向けて、現状を打破するための新しい価値やアイデアを提案している、インド国内で影響力のある人物を、政治、経済、文化、学術、科学など幅広い分野から年間1～2名選出し、数日～1週間程度日本に招聘する。招聘フェローは、講演会、関連機関の訪問、地方視察などを通して日本の関係者と意見交換やネットワーク構築を行う。

2013年度は、2人目のフェローとして、インドで最も権威のある民間シンクタンクの一つ、政策研究センターの所長プラタープ・バーヌ・メータ氏を招聘した。メータ氏は2014年1月14～17日に来日、滞日中、国際文化会館での講演のほか、国連大学での講演、日本のジャーナリストやインド専門家との対話などに参加した。

開催日	タイトル	講師・モデレーター
2014年 1月16日	岐路に立つインドーインド 政治・経済の潮目を読む	講師：プラタープ・バーヌ・メータ モデレーター：藤原帰一／東京大学大学院法学政治学研究科教授

4. 日米国際金融シンポジウム（ハーバード・ロースクール）

国際文化会館はハーバード・ロースクール国際金融システム・プログラム（PIFS）との共催で、日米国際金融シンポジウムを実施してい

る。本シンポジウムは、毎年、日米交互で開催され、日米両国の政府高官、政治家、金融機関幹部、法律家、コンサルタント、研究者、メディア代表者など 100 名以上が参加し、2 日間にわたって国際金融システムの機能と安定化にかかわる問題について討議を行う。

第 16 回シンポジウムは、10 月 25～27 日、米国ニューヨーク州アーモンクで開催し、日米から約 100 名が参加、以下の 3 つのテーマについて討議した。

- ▶ 財政の持続可能性の悪化と、政府債券市場、金融システムへの影響
- ▶ 依然"TOO BIG TO FAIL" か？ SIFI (Systemically Important Financial Institution) の規制の行方は？
- ▶ アベノミクスと Fed (連邦準備制度) の量的緩和策は世界の経済成長をもたらすか？

II. 人材育成プログラム

1. 新渡戸国際塾

新渡戸国際塾は、企業、NGO/NPO、官公庁、研究機関などの若手職員を対象に、国内外の国際的な現場で活躍できる人材の育成を目的に、2008 年度から実施しているもので、2013 年度に第 6 期を迎えた。塾長は明石康 (国際文化会館理事長)、コーディネーターは渡辺靖氏 (慶應義塾大学 SFC 教授)。6 月から 12 月まで全 13 回の講義を行った。また第 6 期では、近藤正晃ジェームス氏 (Twitter Japan 株式会社代表取締役会長)、ローレンス・W・ベイツ氏 (前在日米国商工会議所会頭) を新たに運営委員として迎えた。

第 6 期には、書類選考 (願書・小論文) と面接を経て、企業 (金融、商社、メーカーなど)、国際交流・協力団体などから 14 名の塾生 (平均年齢 33.3 歳) が選抜された。全 13 回の講義のうち 7 回は一般公開した。

本プログラムは、公益財団法人渋沢栄一記念財団と、一般財団法人 MRA ハウスの助成を受けて実施している。

2013 年度のカリキュラムは、以下の通りである。

回	日時	テーマ	講師など
第 1 回	6 月 15 日	この国を開くということ (公開)	明石 康 / 新渡戸国際塾塾長

第2回	6月22日 ～ 6月23日 気仙沼 (宮城県)	気仙沼からこれからの日本を考える	コーディネーター：茂木崇史／新渡戸国際塾4期生、一般社団法人まちの誇り代表理事 パネリスト：白井壯太郎／株式会社白福本店代表取締役社長 及川 洋／有限会社オイカワデニム常務取締役 畠山 信／NPO 法人森は海の恋人副理事長 講師：畠山重篤／NPO 法人森は海の恋人理事長
特別回	6月26日 7月6日	コミュニケーション・スキル養成講座 「国際コミュニケーションへの道」	ジョセフ・ショールズ／NPO法人異文化教育研究所代表
第3回	7月27日 ～ 7月28日 三浦海岸合宿	現代における武士道とは	洪澤 健／公益財団法人日本国際交流センター理事長、コモンズ投信株式会社社長
		30年後の日本社会	渡辺 靖／新渡戸国際塾コーディネーター
第4回	8月10日	「仕事」とは何か (公開)	近藤正晃ジェームス／Twitter Japan株式会社日本代表・東アジア代表
第5回	8月25日 於：渋沢史料館	Shibusawa Eiichi and Asia	渋沢雅英／公益財団法人渋沢栄一記念財団理事長
第6回	9月7日	修了生企画プログラム	第1期から第5期修了生企画プログラム
第7回	9月21日	在京外国人との対話	ALFP フェローとの対話
第8回	10月5日	平和のつくり方(公開)	瀬谷ルミ子／認定NPO 法人日本紛争予防センター理事長

第9回	10月27日	日本経済への恩返し（公開）	齋藤・ウィリアム・浩幸／株式会社インテカー代表取締役社長
第10回	11月2日	あなたのリーダーシップとは？（公開）	石倉洋子／慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授
第11回	11月16日	超〈集客力〉革命：美術館が街を変える（公開）	蓑 豊／兵庫県立美術館館長
第12回	11月30日	これからの世界を動かすリーダーへ（公開）	行天豊雄／公益財団法人国際通貨研究所理事長
第13回	12月7日	修了式	

2. 日米芸術家交換プログラム（日米友好基金 ほか）

米国の芸術家5名が来日し、約3カ月間、日本の文化・芸術を研究し、創作活動を行ったり、日本の芸術家と交流を深めたりするプログラムで、日米友好基金（Japan–United States Friendship Commission）が主催し、国際文化会館は来日中のフェローの活動支援を受託している。1978年より実施され、専門スタッフが来日時のオリエンテーションや住居の手配、日本人芸術家や関連団体などへの紹介、情報の提供や通訳など、フェローの活動全般をサポートしている。

2013年度に来日したアーティストは、以下の通りである。

マリー・ムツキ・モケット Marie Mockett／ライター（3月より3カ月）
 ジョン・ジェスラン John Jesurun／劇作家、舞台芸術家（4月より3カ月）
 ウィリアム・ローパー William Roper／作曲家（4月より3カ月）
 カール・バークハイマー Karl Burkheimer／ヴィジュアル・アーティスト（5月より3カ月）
 ブルース・ロジャース Bruce Rogers／ライター（8月より3カ月）

また、来日中の米国人芸術家の活動や、彼らと日本人芸術家がコラボレーションする際の発表の場として、「IHJアーティスト・フォーラム（略称AF）」（助成：日米友好基金）を不定期に開催している。

2013年度は、以下の通り5回のフォーラムを開催した。

開催日	タイトル	出演者・講師など
7月2日	コンサート「人生の地図」	出演：ウィリアム・ローパー／旅用チューバ、野澤徹也／三味線、クリストファー遙盟／尺八、リザ・ローヴィッツ／詩
7月10日	ドラマリーディング&トーク「ピロクテーテス」	作・演出：ジョン・ジェスラン 出演：笠木 誠、真那胡敬二、中村 崇
8月1日	トーク「触覚的眼差し—素材の感性を探して」	スピーカー：カール・バークハイマー
11月5日	リーディング「東北の怪談—異界からのメッセージ」	スピーカー：マリー・ムツキ・モケット
11月21日	リーディング「平凡の変容—物語のやってくる場所」	スピーカー：ブルース・ロジャーズ

III. パブリック・プログラム

1. アイハウス・パブリック・プログラム

(1) アイハウス・ランチタイム・レクチャー

本プログラムは、各分野の第一線で活躍中の専門家を講師に迎え、タイムリーなテーマについて、わかりやすく解説する時事講演会である。

2013年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
4月16日	“子どもが一番幸せな国” オランダからみた日本の教育—地球市民に求められるもの	リヒテルズ直子／教育研究家・作家
7月19日	マイノリティの増加とアメリカの政治の将来—変わるものと変わらないもの	久保文明／東京大学法学部教授

12月4日	ミャンマーの現状と課題—変化を推し進めるもの／阻害するもの	根本 敬／上智大学外国語学部教授
2014年 2月20日	『生き心地のよい社会』を目指して—若者の不安を読み解く	上田紀行／東京工業大学リベラルアーツセンター教授

(2) japan@ihj

「日本理解の促進」を共通項に開催する講演会で、国際文化会館がこれまで築いてきたアカデミズム、ジャーナリズム、アート、ビジネスなどにおける内外の専門家の協力のもとに実施している。いずれの講演も、基本的には通訳をつけずに英語で行うことが特徴となっている。

2013年度の開催は、以下の通りである。

開催日	テーマ	講師
5月10日	東日本大震災の報道を通して みた日本のジャーナリズム	マーティン・ファクラー／『ニューヨーク・タイムズ』 東京支局長 司会：石塚雅彦／元フォーリン・プレスセンター専務理事
6月14日	芸術と科学を通じた真理を求めて—バックミンスター・フラウとイサム・ノグチ	貞尾昭二 /元イサム・ノグチ財団 ディレクター 聞き手：クリストファー・ブレイズデル／国際文化会館芸術監督
11月19日	CSR（企業の社会的責任）の可能性と限界—ヨーロッパ、アメリカ、日本の現在	デイヴィッド・ヴォーゲル /カリフォルニア大学バークレー校教授 コメンテーター：梅津光弘／慶應義塾大学商学部准教授
2月13日	サイボーグの出現—土方巽と暗黒舞踏からみた日本の戦後	ブルース・ベアード／マサチューセッツ大学アマースト校准教授 コメンテーター：石井達朗／舞踊評論家

(3) 東京国際文芸フェスティバル

国際文化会館は、2012年度より日本財団が主催する「東京国際文芸フェスティバル」の一部のセッションを、同財団との共催で開催している。日本財団は、東京をニューヨーク、ロンドン、パリと並ぶ世界の文芸の

拠点の一つとして位置づけ、文芸拠点としての日本の文学・文化を世界にアピールするショーケースとして、日本と世界の出版・文芸業界の橋渡し役となるために本フェスティバルを開催している。

2013年度は、国際文化会館のミッションと合致するテーマを扱った以下のセッションを共催した。

開催日	テーマ	講師
2014年 3月6日	いま、アジアで『文学すること』	司会：平野啓一郎／作家 パネリスト： 中島京子／作家、キム・ヨンス／作家（韓国）、タッシュ・オー／作家（マレーシア）、ウティット・ヘーマムーン／作家（タイ）

(4) その他

① トーマス・バーゲンソール氏講演会

10歳でアウシュビッツ強制収容所に送られながらも奇跡的に生き残った経験を持つトーマス・バーゲンソール氏（ジョージ・ワシントン大学法科大学院教授）を招き、講演会「幸運な子—ホロコーストの記憶が未来に投げかけるもの」を開催した。

開催日	テーマ	講師
9月11日	幸運な子—ホロコーストの記憶が未来に投げかけるもの	トーマス・バーゲンソール／ジョージ・ワシントン大学法科大学院教授、元国際司法裁判所判事

② 「鼓童」特別編成コンサート

日本の文化芸術を体験する機会を提供するため、滞日中の留学生や会員同伴の外国人を招待し、和太鼓カンパニーの先駆的存在で、国際的に名高い「鼓童」の公演を行った。

開催日	タイトル	講師・モデレーター
10月11日	鼓童特別編成コンサート 「太鼓—日本の脈動」	出演：鼓童（藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、山口幹文、宮崎正美、草洋介、小松崎正吾）、金城光枝

③ 入江昭氏国際交流基金賞受賞記念講演会

国際交流基金賞は1973年に始まり、2013年度で41回目を迎えた。本賞では、学術、芸術その他の文化活動を通じて、国際相互理解の増進や国際友好親善の促進に長年にわたり特に顕著な貢献があり、引き続き活動が期待される個人または団体を顕彰している。2013年度の受賞者の一人である入江昭氏（ハーバード大学名誉教授）の受賞記念講演会「アジア太平洋共同体の可能性」を、国際交流基金との共催で実施した。

開催日	テーマ	講師
10月28日	アジア太平洋共同体の可能性	入江 昭／ハーバード大学名誉教授

④ 写真展「Memories of Their Majesties in India 53 Years Ago」

11月の天皇皇后両陛下のインド公式訪問に伴い、両国の友好関係の発展と醸成に寄与すべく、53年前、当時皇太子、皇太子妃だった両陛下が訪印時に定礎式をされたインディア・インターナショナル・センター（IIC）にて、同センター、インド写真展開催委員会および国際文化会館の共催で写真展を開催した。会場となったIICでは、1960年の両陛下訪印時の写真を中心に、国際文化会館とインドとの交流写真も展示された。

開催日	タイトル
11月29日 ～ 12月5日	Memories of Their Majesties in India 53 Years Ago

2. 出版

(1) 公益信託長銀国際ライブラリー

2000年7月に設定された「公益信託長銀国際ライブラリー基金」の事業で、前身である長銀国際ライブラリー財団の残余財産を基金として国際文化会館が事業を継承している。政治・経済・社会・文化などの日本人著作を毎年2冊選定し、英訳・刊行し、広く内外に配布し、国際社会の中での日本理解の増進に資することを目的としている。

選定した著作は、翻訳・編集の上、国内外の大学図書館、研究機関、公共図書館、文化施設など、海外2800カ所、国内700カ所へ無償配布している。

2013年度の事業内容は、以下の通りである。

【刊行】

田中優子著『布のちから：江戸から現在へ』（朝日新聞出版、2010 年刊）
の英語版

The Power of the Weave: The Hidden Meaning of Cloth by Tanaka Yuko

翻訳者: Geraldine Harcourt

若松英輔著『井筒俊彦：叡智の哲学』（慶應義塾大学出版会、2011 年刊）
の英語版

*Toshihiko Izutsu and the Philosophy of WORD: In Search of the Spiritual
Orient* by Wakamatsu Eisuke

翻訳者: Jean Connell Hoff

【翻訳・編集】

三浦展著『第四の消費：つながりを生み出す社会へ』（朝日新聞出版、
2012 年刊）

The Rise of Sharing: Fourth-stage Consumer Society in Japan by Miura
Atsushi

翻訳者: Dana Lewis

今橋理子著『秋田蘭画の近代：小田野直武「不忍池図」を読む』（東京
大学出版会、2009 年刊）

*A New Reading of Odano Naotake's "Shinobazunoike-zu": The Akita Ranga
School and the Cultural Context in Tokugawa Japan* by Imahashi Riko

翻訳者: Ruth S. McCreery

また、2014 年度に英訳編集される次の図書が選定された。

小倉和夫著『日本のアジア外交：二千年の系譜』（藤原書店、2013 年刊）
Japan's Asian Diplomacy: The Legacy of Two Millennia (tentative) by

Ogoura Kazuo

翻訳者: David Noble

樋口和憲著『笑いの日本文化：「烏滸^{おこ}」の者はどこへきえたのか？』
（東海教育研究所、2013 年刊）

Laughter in Japanese Culture (tentative) by Higuchi Kazunori

翻訳者: Waku Miller

(2) アイハウス・プレス

2006年度より、出版メディアを通して、①国際文化会館のプログラム活動の成果を広く一般に発信するとともに、②海外における日本理解の増進を目的として、日本人による名著を英訳・刊行して発信する活動を実施している。

2013年度は、以下を刊行した。

『危機を生き抜くリーダーシップ』新渡戸国際塾講義録3
国際文化会館 新渡戸国際塾編

(3) 定期・不定期刊行物

各年度の事業内容をまとめた年次報告書（『国際文化会館の歩み』、*Annual Report*）と、講演録などを収録して国際文化会館の活動を伝える機関誌（『国際文化会館会報』、*IHJ Bulletin*）を刊行し、会員ならびに関係機関に送付した。また、これら機関誌が国際文化会館の広報的役割をより果たせるように、その内容や発行時期の見直しを図り、2014年3月に*I-House Quarterly*（年4回発行、和英併記）を創刊し、会員ならびに関係機関に送付した。

2013年度の刊行物は、以下の通りである。

- A) 英文年次報告書 *Annual Report 58*（2012年度事業報告、8月発行）
- B) 和文年次報告書 『国際文化会館の歩み 58』（2012年度事業報告、8月発行）
- C) *IHJ Bulletin*（“ ”内は主な掲載記事）
 - Vol. 33, No. 1 (June 2013)
 - “The Future of Civil Society in Asia” Imtiaz Gul
 - “The Future of the ‘Remnant’” Goenawan Mohamad
 - Interview: Gerald L. Curtis “Changes in Postwar Japan and the Country’s Future Role in Asia”
 - “India’s Foreign and Strategic Policy in Asia” Siddharth Varadarajan
 - “A Remembrance of Mishima Yukio and His Death” Joyce Lebra and Donald Keene
 - “Taking Nothing for Granted” Pico Iyer
 - Vol. 33, No. 2 (December 2013)
 - “Why the Holocaust Must Not Be Forgotten” Thomas Buergenthal
 - Interview: Kondō Seiichi “Making Tokyo a Contemporary Changan”

“Seeking the Truth through Art and Science” Shōji Sadao, Christopher Blasdel

“Toward an Asia-Pacific Community” Iriye Akira

D) 『国際文化会館会報』(「 」内は主な掲載記事)

➤ Vol. 24, No. 1 (6月発行)

「アジアの市民社会」イミティアズ・グル

『残りのもの』の未来」グナワン・モハマド

インタビュー：ジェラルド・カーティス

「戦後の日本政治の変遷と今後のアジアでの役割」

「アジアにおけるインドの対外政策—印中米の三国関係と日本」

シダールタ・ヴァラダラージャン

「三島由紀夫の死についての回想」

ジョイス・リーブラ／ドナルド・キーン

「どんなことも、ないがしろにできない」ピコ・アイヤー

➤ Vol. 24, No. 2 (12月発行)

「なぜホロコーストを忘れてはならないか」

トーマス・バーゲンソール

インタビュー：近藤誠一

「東京を現代の長安に—世界の若いアーティストや学者が集い、交流する場をつくる」

「芸術と科学を通じた真理を求めて—バックミンスター・フラートイサム・ノグチ」 貞尾昭二／クリストファー・ブレイズデル

「アジア太平洋共同体の可能性」入江 昭

E) 『I-House Quarterly』(No.1, Spring 2014) (2014年3月発行)

・ Recent Activities at I-House

・ インタビュー：毛 丹青 (作家)

・ I-House A to Z

・ I-House and Me：藤崎一郎 (日米協会会長)

・ プログラム・カレンダー

3. その他

(1) 「希望：1000人のポートレート」基金

ニューヨーク在住の画家、中川直人氏は、「希望：1000人のポートレート」と題し、東日本大震災の地震・津波被害で思い出の写真を失った被災地の方たち1,000人の肖像画を描いてきた(一部、自衛隊員や消防隊員など、救助・復旧作業に携わった人たちの肖像画も含む)。1000人の肖像画

作成が完結した後、震災から2年がたった2013年3月11日に、引き続き被災地を支援するための基金が設立された（事務局：国際文化会館およびニューヨーク日系人会）。寄付金は、被災地の、あるいは被災地を支援する、特に教育やアートに関連した団体へ寄付される。2013年度は、以下の2団体に30万円ずつ寄付した。

- NPO 法人岩手未来機構（岩手県盛岡市）
- 福島県富岡町立富岡第一中学校バドミントン部（避難先校：福島県猪苗代町立猪苗代中学校）

(2) ドナルド・リチー氏を偲ぶ会

長年にわたり国際文化会館の会員であり、アドバイザーの一人であったドナルド・リチー氏が2013年2月19日にご逝去された（享年88歳）。国際文化会館では、日本映画の海外への紹介や、戦後日米の芸術交流において多大な功績を残したリチー氏のエッセー、作曲、映像作品を鑑賞し、氏を偲ぶお別れの会を4月15日に行った。会にあわせ、リチー氏が生前書かれたエッセーやリチー氏への追悼文などを掲載したブックレットを、米国大使館の助成により制作し、参加者に配布した。

開催日	タイトル	講師・モデレーター
4月15日	ドナルド・リチーさんを偲ぶ会	挨拶：明石 康、ジョン・V・ルース大使 ／駐日米国大使館特命全権大使 スピーチ：佐藤忠男／映画評論家 朗読：ティモシー・ハリス／上野学園大 学講師、俳優 演奏：小野綾子／ピアノ、きむら みか／ ソプラノ

IV. 調査研究プロジェクト

1. 外交問題夕食懇談会

外交問題に関心の深い人々に参加いただき、毎回ゲストを迎え、インフォーマルな雰囲気の中で懇談を深めるもの。調査研究プロジェクトとして行っており、得られた成果を他のプログラムの参考にするため、参加者は、学者・研究者、外交実務経験者、NPO、シンクタンク、メディ

ア、経済人など、職種や専門を超えて、異なる分野から少人数に限定している。使用言語は日本語または英語。

2013年度は、以下の4回の懇談会を開催した。

開催日	テーマ	講師
5月7日	昨今の欧州事情と EU・日本関係の今後	ハンス・ディートマール・シュヴァイスグート／駐日欧州連合代表部 特命全権大使
5月29日	変化する北東アジア情勢下における日韓関係発展のあり方	申珏秀／駐日本国大韓民国大使館 特命全権大使
10月2日	国連外交と日本	デイビッド・M・マローン／国際連 合大学学長
2014年 1月31日	紛争と文化外交：平和構築を支える文化芸術の力	福島安紀子／東京財団上席研究員

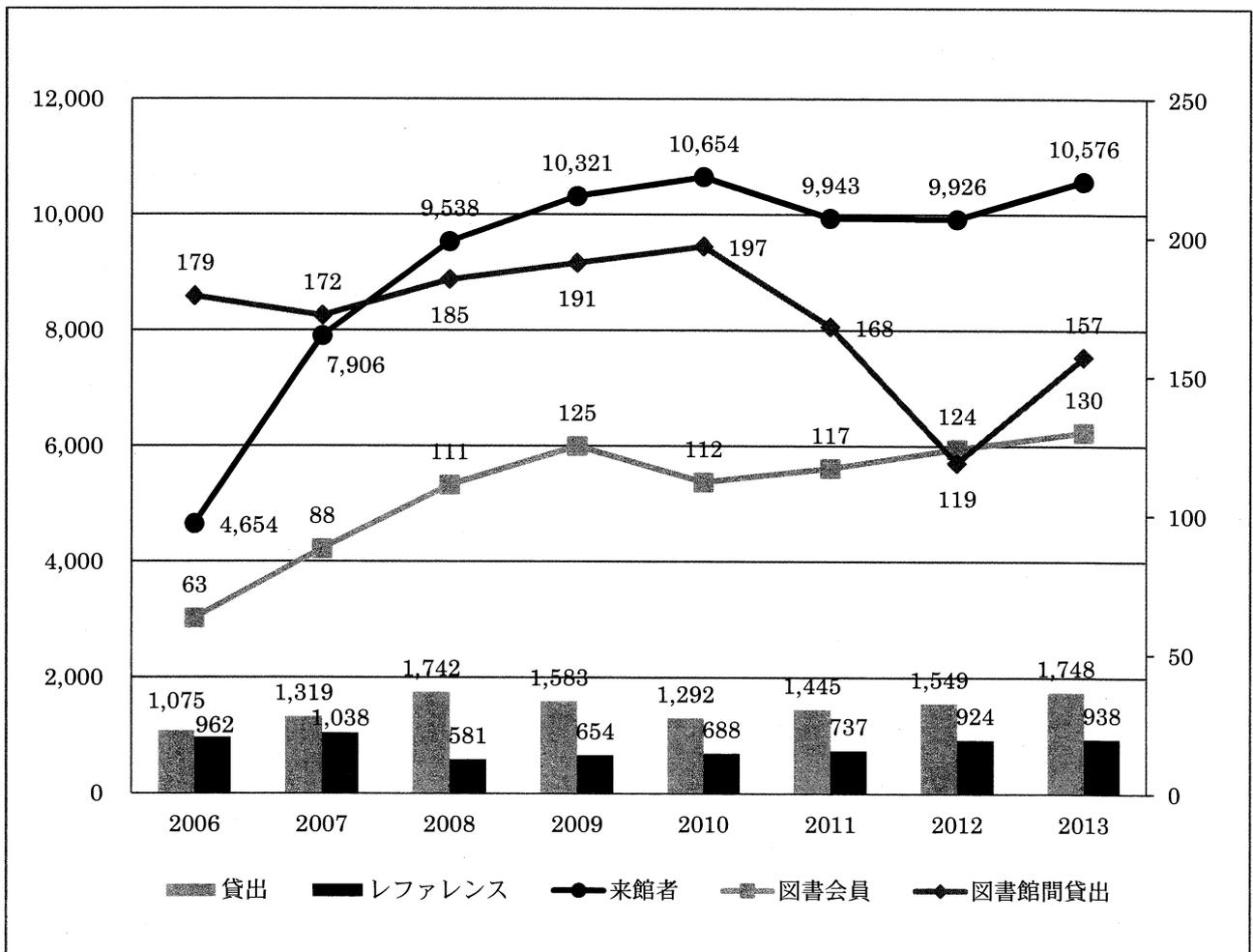
V. 図書室

1. 通常業務

(1) 図書室サービス 2006-2013

図書室のサービス利用全般に増加がみられた。貸出冊数は前年比 13 パーセント増加し、図書会員数は前年比 5 パーセントの増加があった。(図書会員に関する詳細は、3 ページを参照。)

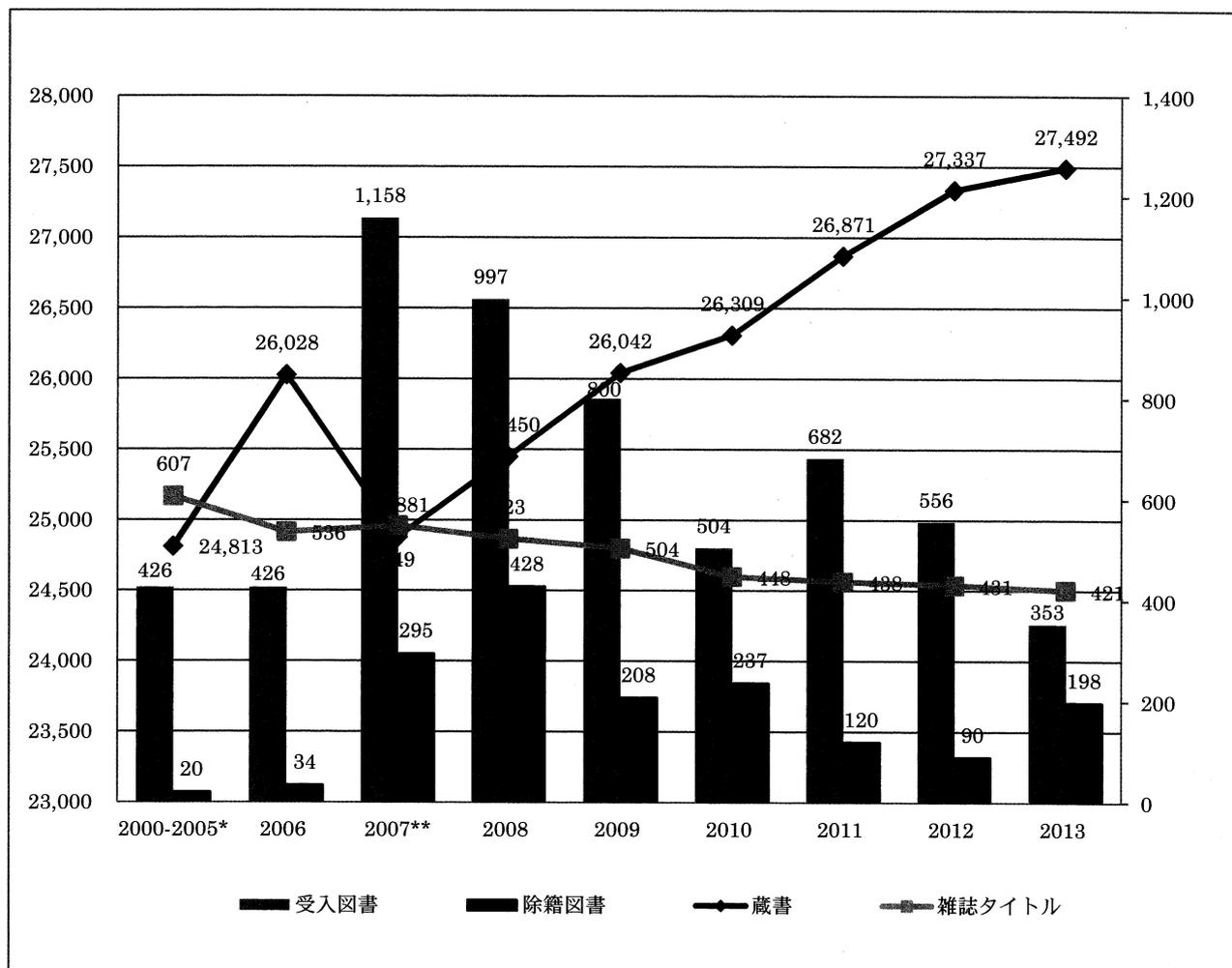
金融危機や震災などの影響も顕著に受けるが、図書室サービスへの需要は毎年伸びているといえる。



* 2000 年度-2005 年度の平均である。

(2) 蔵書管理 2000-2013

2013年度は、書籍購入予算の減額のため受入図書冊数の減少があった。
除籍冊数を増加し書棚の空間管理に努めた。



* 2000年度-2005年度の平均である。

** 2007年度以降は、図書館システムのLIMEDIOにより蔵書数を集計している。

2. その他

新規事業として、朗読会および日仏会館図書室と共催の書籍小展示を次の通り実施した。

① 朗読会 Reading about Japan at I-House Library

開催日	タイトル	朗読者
9月26日	Roger Buckley reads <i>Fireworks and unpublished works</i> by Angela Carter	ロジャー・バックリー／オックスフォード大学講師、元国際基督教大学教授
12月9日	Gayle K. Sato reads <i>Tropic of Orange</i> by Karen Tei Yamashita	ゲイル・K・サトウ／明治大学教授 カレン・テイ・ヤマシタ／作家、カリフォルニア大学サンタクルーズ校教授
2014年 2月12日	Lars Vargö reads <i>OUT</i> by Kirino Natsuo	ラーシュ・ヴァリエ／駐日スウェーデン大使館特命全権大使

② 書籍小展示（共催：日仏会館図書室）

開催日	タイトル	展示資料
10月26日 ～ 11月15日	英語で読む日本文学	日本文学の英訳本
2014年 3月1日 ～ 4月1日	東日本大震災に関する英語資料	東日本大震災に関する資料

VII. 国際文化会館の運営

2013年度は、研究個室（宿泊施設／全44室）において、12,645名の宿泊客を迎えた。このうち外国人の利用が60%を超え、国内外の国際交流関係者、学者、芸術家、文化、知識人の方々が集う施設としての特色をよく発揮している。

会員向け宿泊キャンペーン（全会員対象）

- 夏季宿泊優待券（有効期間：7月～8月）
- 冬季宿泊優待券（有効期間：12月～2014年2月）

別館に位置する会合施設（講堂／セミナー室）での利用者は28,806名、東館の会合施設（岩崎小彌太記念ホール／樺山松本ルーム）では、31,187名に利用された。

宴会キャンペーン

- サマー・パーティープラン（7月1日～9月15日）
- ミーティング&ランチ・プラン（4月～9月）
- ウィンター&スプリング・パーティープラン（12月16日～2014年3月14日）

料飲施設のティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』は、58,262名に利用された。また主食堂のレストラン『SAKURA』は、15,669名の利用があった。

ティー・ラウンジ『ザ・ガーデン』キャンペーン・イベント

- お花見ちらし（2013年3月20日～4月7日）
- お花見ローストビーフセット（2013年3月23日～4月7日）
- ガーデン・ビアセット（7月20日～8月31日）
- 秋の Pasta フェア（9月24日～10月31日）
- ハロウィーンディナー（10月29日～31日）
- ピラフフェア（12月1日～12月21日）
- クリスマスディナー（12月22日～25日）
- 年越し蕎麦（12月31日）
- おしるこ（2014年1月1日～3日）
- スープフェア（2014年1月27日～2月23日）

- オムライスフェア (2014年3月1日～20日)
- お花見ちらし (2014年3月21日～4月6日)
- お花見ローストビーフセット (2014年3月23日～4月6日)

レストラン『SAKURA』キャンペーン・イベント

- お花見弁当 (2013年3月23日～4月7日)
- 夜桜会席 (2013年3月23日～4月7日)
- 清涼会席 (7月19日～7月28日)
- 初秋会席 (9月24日～10月6日)
- 秋の味覚特選メニュー (10月18日～10月27日)
- クリスマス特別メニュー (12月22日～12月25日)
- おせち料理 (2014年1月1日～3日)
- 新春会席 (2014年1月1日～5日)
- シェフおすすめベジタブルコース (2014年1月10日～2月9日)
- お花見弁当 (2014年3月21日～4月6日)
- 夜桜会席 (2014年3月28日～4月6日)

以上の結果、別館を含む会合施設および料飲施設の総利用客数は、146,569名となった。また会員懇親の催しとして、以下を開催した。

- 観桜会 (4月1日～2日 参加者 233名)
- ガーデン・ビアパーティー (8月2日 参加者 212名)
- 国際文化会館会員晩餐会
特別ゲスト：浜田宏一氏 (11月18日 参加者94名)
- ワインパーティー (11月21日 参加者 126名)
- クリスマス晩餐会 (12月23日～25日 参加者 188名)

いずれの日も会員の皆様およびゲストの方々が集い、交歓のひとときをお楽しみいただいた。

サービス活動実績

研究個室

自 2013年 4月 1日

至 2014年 3月 31日

	2012年度	2013年度	増減	前年比
宿 泊 者 数	11,515	12,645	1,130	109.8%
一日平均宿泊者数	31.5	34.6	3.1	109.8%
外 国 人 比 率	60.8%	63.3%	2.5%	104.1%
稼 働 率	59.5%	65.7%	6.2%	110.4%
収 入 額	¥101,113,018	¥123,539,695	¥22,426,677	122.2%
一日平均収入額	¥276,265	¥338,465	¥62,200	122.5%

会議室・婚礼関連・料飲施設

自 2013年 4月 1日

至 2014年 3月 31日

		2012年度	2013年度	増減	前年比
セミナー室	収入額	¥53,045,022	¥52,966,502	¥-78,520	99.9%
	客数	29,128	28,806	-322	98.9%
	客単価	¥1,821	¥1,839	¥18	101.0%
会議室	収入額	¥169,721,785	¥180,999,318	¥11,277,533	106.6%
	客数	23,611	23,480	-131	99.4%
	客単価	¥7,188	¥7,709	¥520	107.2%
婚礼手数料	収入額	¥114,079,328	¥98,589,090	¥-15,490,238	86.4%
	客数	8,823	7,707	-1,116	87.4%
	客単価	¥12,930	¥12,792	¥-138	98.9%
レストラン	収入額	¥85,974,124	¥90,001,395	¥4,027,271	104.7%
	客数	15,166	15,669	503	103.3%
	客単価	¥5,669	¥5,744	¥75	101.3%
ラウンジ	収入額	¥94,803,977	¥97,703,276	¥2,899,299	103.1%
	客数	58,155	58,262	107	100.2%
	客単価	¥1,630	¥1,677	¥47	102.9%
合計	収入額	¥517,624,236	¥520,259,581	¥2,635,345	100.5%
	客数	134,883	133,924	-959	99.3%
	客単価	¥3,838	¥3,885	¥47	101.2%
一日平均	収入額	¥1,414,274	¥1,425,369	¥11,095	100.8%
	客数	369	367	-2	99.6%

付 属 明 細 書

2013年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2014年5月

公益財団法人 国際文化会館